【熊本県地方創生会議】「くまもと新時代共創総合戦略」（素案）に関する御意見の概要及び県の考え方について

No	御意見・御提案の概要	県の考え方	取扱
1 こどもたちが笑顔で育つ熊本 (施策1)こども・若者がキラキラ輝く社会づくり			
1	熊本県子ども会育成連絡協議会に所属する各市町村の単位子ども会が減少傾向にあり、地域を基盤とした仲間集団の活動（経験）を通してたくましい子どもを育成していくことも重要であることから、子ども会の育成に関する内容を盛り込んでいただきたい。	教育庁では、熊本県子ども会連合会に対し、子ども会活動の振興等に資するため団体補助金を支出するとともに、現在、健康福祉部で策定中の「こどもまんなか熊本・実現計画」において、連携する機関の1つに「子ども会」を位置付け、活動の推進を図っています。	参考
2	「②特に支援が必要なこどもへの支援」の2段目の最後「保育所等におけるインクルージョンを推進します。」という表現について、分かりやすい言葉に置き換えるか、注釈をつけてはいかがか。	御意見を踏まえ、「インクルージョン」について注釈を追記しました。「障がい児が障がい児支援を利用し、保育、教育等の支援を受けることができるようにすることで、障がいの有無にかかわらず、施設利用の対象となる乳幼児全てが共に成長できるよう、活動等への参加や包容が十分に達成されていること。」 (参考：障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本的な指針p17)	反映
3	「新時代」の主人公は、間違いなく「こどもたち」であり、「総合戦略」の冒頭に、「1. こどもたちが笑顔で育つ熊本」をもってこられたことは、「人」を大切に知る知事の意向が反映されていて高く評価できる。 また、「KPI」のトップに「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある児童生徒の割合」を持って来たことは、現在の日本のこどものおかれた状況と課題を的確に指摘しており、最優先で改善すべき内容として取り組むべきと判断する。	「こどもまんなか熊本」の実現に向けて、こども・若者・子育て世代など当事者・関係者の意見を聞きながら、市町村や企業等とも連携して、全庁一丸となって取り組んで参ります。	参考
(施策2)家庭や子育てに夢を持てる社会づくり			
4	①希望を叶える結婚・妊娠・出産への支援 ・県内どこでも安心して出産できる環境づくりを推進するため、総合的な周産期医療体制を充実させます。について、県内においては、都市部を除き出産のできる医療機関が減少し続け大きな問題となっている。関係機関と連携した周産期医療システムが各地域で構築されているが、人材不足や財政的問題等の根本的な課題により、地域の実情に応じた取組みの継続が困難となっていることから、既存の周産期医療システムの継続への支援に関する内容を盛り込んでいただきたい。	御指摘を踏まえ、県内各地域の周産期医療体制を確保するための具体的な取組みの方向性について、下線部のとおり追記します。 県内どこでも安心して出産できる環境づくりを推進するため、 <u>産科医師等の確保・育成に継続的に取り組むとともに、ICTの活用や医療機関間の連携強化等を進め、総合的な周産期医療体制を充実させます。</u>	反映
(施策3)質の高い教育・未来を担う人材の育成			
5	スクールバスや徒歩、自転車などの登下校についても、安心安全な学校づくりに欠かせない大事な要素だと思われるため、児童生徒の通学路の安全確保に関する内容を盛り込んでいただきたい。	御指摘を踏まえ、通学路の安全確保について、施策1②に以下のとおり記載します。 こどもが犯罪や交通事故の被害に遭わないよう、通学路の見守りカメラの設置、 <u>交通安全アドバイザーや各種シミュレータによる交通安全教育を推進するほか、「県警こども見守り・訪問隊」の活動を推進するとともに、防犯ボランティア団体、地域のスクールガードなどによる登下校時の見守り活動の支援を行います。</u> 頂いた御意見を踏まえ、こどもが犯罪や交通事故の被害に遭わないよう、通学路の安全対策に取り組んで参ります。	反映
6	④県立高校の魅力向上 「特色ある教育を行う高校で学ぶ機会を県内全てのこどもたちが得られるようにする」ためには、スクールバス運行等の通学支援が必要不可欠であることから、高校併設の寮等を含め通学支援等に関する内容を盛り込んでいただきたい。	頂いた御意見については、県立高校のあり方検討会等において、全国募集を含めて学区制度等の議論の中で検討して参ります。	参考
7	マイスターハイスクール事業について、八代工業高校を指定校として、高い評価を受け令和3年から5年まで3年間実施し、令和6年、7年の2年間に八代工業高校、天草工業高校、玉名工業高校、阿蘇中央高校4校で同様の横展開を行っているところから、この旨を文中に盛り込まれたらいかがか。	御指摘を踏まえ、下線部のとおり追記しました。 農業(林業含む)・工業・商業・水産・家庭・福祉などの学科を有する専門高校については、卒業生が県内企業や地域社会で活躍できる人材となれるよう市町村・各業界団体との協力のもと、 <u>企業見学やインターンシップ、カリキュラムの見直しなど地域経済界と一体となった人材育成の推進に取り組むこと等により、企業や事業主とのマッチングを進め、在学中から実践的な学びの充実に取り組まします。</u>	反映

【熊本県地方創生会議】「くまもと新時代共創総合戦略」（素案）に関する御意見の概要及び県の考え方について

No	御意見・御提案の概要	県の考え方	取扱
2 世界に開かれた活力あふれる熊本			
(施策1)「くまもとで働く」人材の確保・育成			
8	<p>(大学等と連携した人材育成) ・熊本県立水俣高等学校において、令和7年(2025年)4月に半導体情報科を設置し、半導体関連の基礎的な知識や技術を身につけた人材育成に取り組みます。 について、県内では半導体関連産業の集積が急速に進み、人材不足が大きな懸念となっている中において、人材不足の影響や人材の県外流出を緩和するためには、水俣高校に限らず他の県立高校においても関連学科設置、カリキュラム導入等が必要であると考えられることから、関連学科設置、カリキュラム導入等の拡大に関する内容を盛り込んでいただきたい。</p>	<p>県立高校魅力化向上の中あり方検討会における、今後のあり方検討の中で、関連学科の設置やカリキュラムについても検討して参ります。</p>	参考
9	<p>高校や大学等の卒業生の県内就職を今後さらに促していくため、企業見学やインターンシップを効果的なものとして活用し、県内企業の認知度を高めるとともに、熊本で働くことを意識させる教育内容、特に地場企業で働く人材に役立つ実学系や自然科学系に力を入れる必要があると考える。</p>	<p>御指摘を踏まえ、下線部のとおり追記しました。 柱1 施策3 ④県立高校の魅力向上 農業(林業含む)・工業・商業・水産・家庭・福祉などの学科を有する専門高校については、卒業生が県内企業や地域社会で活躍できる人材となれるよう市町村・各業界団体との協力のもと、<u>企業見学やインターンシップ、カリキュラムの見直し</u>など地域経済界と一体となった人材育成の推進に取り組むこと等により、企業や事業主とのマッチングを進め、在学中から実践的な学びの充実に取り組みます。</p>	反映
10	<p>・人材の育成には、それを牽引する高度な人材を優遇して呼び込むことが必要である。 ・生活環境整備、職場環境整備等の戦略的な施策も必要と考えられる。</p>	<p>御指摘を踏まえ、以下のとおり記載しました。 総合戦略 柱2 施策1 ①大学等と連携した人材育成 ・熊本県立大学において、世界トップクラスの人材を招聘(しょうへい)し、強みである環境や国際、DX分野で連携しつつ、半導体を活かした新たな産業創出に取り組むとともに、「地域に生き、世界に伸びる」人材を育成します。 総合戦略 柱2 施策1 ②様々な分野の人材確保 ・県内における人手不足が深刻化する中、「くまもとで働こう」推進本部において、新規学卒者等の「県内定着」や、教育機関と連携した「人材育成」、DX等による「生産性向上」、更には「働きやすい職場環境」など、課題解決に向けて全庁的に検討を行い、人材の確保・育成の取組みを推進します。 基本方針 柱2【現状と課題】 教育機関や企業等とも連携した人材の育成、確保に加え、質の高い生活環境、職場環境、研究環境などを確保し、海外からの人材の受け入れにつながる「選ばれる熊本」を実現します。そして、長期的には、各種産業の成長により世界に開かれた活力あふれる地域となり、その魅力により県外・国外の人材が集まる好循環を目指します。</p>	反映
(施策2)世界に伍する産業拠点熊本の創出			
11	<p>くまもと版サイエンスパークの実現に向けて、大手半導体企業の集積が進んでいる。今後新生シリコンアイランド九州の拠点となるためにも、台湾新竹サイエンスパークのような企業と大学と研究機関の連携で更なる「強みになる先端技術の創出」を促進するため、体制構築や資金面等の観点から支援を強化していく必要があると考える。 なお、半導体関連企業や大学や研究機関の集積を図るため、用地確保を促進するゾーニング等の取組みを行う必要があると考える。</p>	<p>くまもと版サイエンスパークの実現や街づくりについて、以下のとおり総合戦略に記載しております。 総合戦略 柱2 施策2 ①(産業・研究開発機能の集積) ・<u>くまもと版サイエンスパークの実現に向けて、半導体関連産業の集積に加え他産業の企業や大学、研究機関を誘致する等、国内外の大学間連携を図りながら県内半導体研究の拠点を構築することで、更なる産学連携を進め、人材育成も含めた相乗効果が生まれるような街づくりを推進します。また、街づくりの方向性を明確にするため、関係市町、企業や有識者との議論を加速化させます。</u> なお、体制構築や資金面等の支援については、取組みの議論の中で、県としてどのような支援が適切かを検討して参ります。</p>	記載済

【熊本県地方創生会議】「くまもと新時代共創総合戦略」（素案）に関する御意見の概要及び県の考え方について

No	御意見・御提案の概要	県の考え方	取扱
（施策3）「食のみやこ熊本県」の創造			
12	<p>① 柱2世界に開かれた活力あふれる熊本 （施策3）「食のみやこ熊本県」の創造 ②稼げる農林畜水産業の実践 （高付加価値化） 「日本で愛される熊本の酒（日本酒、球磨焼酎…）」の記載について、「球磨焼酎」を「焼酎」に変更いただきたい。 ・熊本県には多くの焼酎銘柄があり、本年、「第3回酒屋が選ぶ焼酎大賞 米焼酎部門」で、大賞および優秀賞を受賞した天草酒造の焼酎がある。 ・「球磨焼酎」についてはP34（「緑の流域治水を核とした創造的復興」の施策）でも言及されているので、このページでは銘柄を特定せず、「焼酎」と表記いただきたい。</p> <p>② 柱2世界に開かれた活力あふれる熊本 （施策3）「食のみやこ熊本県」の創造 ②稼げる農林畜水産業の実践 （農林畜水産業の持続的発展） 「環境変化に強い養殖業の確立」に関する記載について、発生メカニズムの解明や発生抑制対策、赤潮の影響を受けない避難漁場や新規漁場の整備検討への支援などに係る取組についても記載いただけないか。 ・発生抑制や漁場施設面の整備等、赤潮被害への根本的対策として、国への「赤潮被害対策に関する緊急要望書」へも盛り込まれた内容であり、今後の取組として本戦略にも明記いただきたい。</p>	<p>① ここでは例示であり、全国的にも知名度の高い「球磨焼酎」としておりますが、天草地域の特産品についても引き続き振興を図って参ります。</p> <p>② 御意見を踏まえ、柱2 施策3 ②（農林畜水産業の持続的発展）を以下のとおり修正しました。 ・国に対して、有害赤潮の発生メカニズムの解明などを求めつつ、有害赤潮の早期発見、迅速な情報共有体制の構築とともに、関係機関と連携した防除技術開発などに取り組み、環境変化に強い養殖業の確立を推進します。</p>	一部反映
（施策4）スポーツ、観光、文化芸術の振興			
13	<p>②観光振興（受入体制の充実） 観光MaaSの構築と交通アクセスの改善に関する記載について、観光MaaS構築や交通アクセス改善の取組に天草を加えることはできないか。 ・「観光地・阿蘇をモデル地域として」と言及されているが、天草も同じく観光地であるとともに、交通アクセス上の課題が多くあると認識している。 ・昨年度も行われた実証事業等を経て事業展開されるものと推察するが、天草についても、早期取組エリアとしての検討、本戦略上の記載等をお願いしたい。</p>	<p>御意見を踏まえ、記載内容を修正しました。</p> <p>②（受入体制・基盤強化） 素晴らしい草原や火山の景観を有し、国内外の観光客から高い人気を誇る観光地・阿蘇をモデル地域として、車以外での周遊を促進するため、観光MaaS（観光地を巡る様々な移動手段の検索・予約・決済等をワンストップで提供するサービス）の構築を進めるとともに、JR豊肥本線や南阿蘇鉄道のダイヤの充実、バス路線の再編・充実等、交通アクセスの改善を図ります。また、阿蘇地域における観光MaaSの取組みの成果を踏まえ、県内各地域への展開を推進します。</p> <p>天草地域に限らず、阿蘇地域でのモデル事業の効果を検証した上で、有用と思われる取組を県内全域に順次展開して参りたいと考えています。</p>	反映

【熊本県地方創生会議】「くまもと新時代共創総合戦略」（素案）に関する御意見の概要及び県の考え方について

No	御意見・御提案の概要	県の考え方	取扱
(施策5)交通の利便性向上			
14	<p>「②交通体系の見直し」について 熊本都市圏の交通渋滞の緩和には、市内に流入する車の総量を減らすことが最優先であると思われる。バス事業者等との連携によるパークアンドライドに加え、輸送力の高い鉄道事業者との連携がより重要ではないか。 また、JR鹿児島本線各駅の駅周辺の駐車場の充足しているのか、周辺市町村との連携のもと、駐車場の確保も課題であると思う。 通勤用に使われている月極駐車場の休日利用を促進することは、都市圏で行われる大規模イベントの際の渋滞解消にもつながる。</p>	<p>交通渋滞の緩和に向けて、都市圏の自家用車を削減させるため、パークアンドライドの利用拡大に向けた取組みを推進するとともに、関係機関と連携し、駅周辺の駐車場の活用についても検討を進めて参ります。</p>	参考
15	<p>交通渋滞解消に向けた取組みとして、道路行政や交通体系の見直しも重要であるが、熊本都市圏の渋滞解消が最重要である。朝夕の渋滞の中で公共交通機関の利用を推進すべきだが、中心市街地においては、バスレーン指定のない道路が多く、通勤時間が読みづらいなど改善すべき課題が散見される。 中心市街地への車の進入を減らすための施策をとるなど、抜本的な解決策が必要。例えば、中心市街地から放射状（大津・菊陽・合志・益城・宇土・松橋等）にパークアンドライドの拠点整備を行い、パークアンドライド拠点から中心市街地に向けた通勤バスの導入等スピード感をもった取組みをお願いしたい。</p>	<p>御意見を踏まえ、(施策5)交通の利便性向上 ①交通渋滞解消（短期の取組み）の「パークアンドライド」関係の記載を次のように修正します。 交通渋滞の緩和に向けて、都市圏の自家用車を削減させるため、パークアンドライドの利用拡大に向けた取組みを推進します。</p>	反映
16	<p>今後の熊本は道路整備が大きな課題であり、将来の財政負担（税負担）の軽減と道路の円滑な利用の確保が重要。 例えば、既存の道路も含めて、「交通」という機能と「グリーン」という環境問題を混在させず、明確にゾーン分けすることが、人口縮小社会（働き手不足）に向かう中で社会コスト軽減の為に求められる。 このようにビジョンの実現に際しては、施策が実行される段階で人口減少や費用負担軽減といった観点を欠くことなく、将来も継続可能であるか、真に必要な事業であるかを精査し、規律（基準・ルール）に沿った様態で進められることを望む。</p>	<p>道路構造の技術的基準となる「道路構造令」では、（１）良好な道路交通環境の整備、（２）沿道における良好な生活環境の確保、（３）都市部の良好な公共空間の形成などの観点から、主に都市部の道路において植樹帯を設けるように規定されています。 今回頂いたご意見も踏まえ、将来の人口減少や費用負担軽減の観点から、引き続き、持続可能な維持管理を考慮した道路整備を推進して参ります。</p>	参考
17	<p>①交通渋滞解消 「『自動車1割削減、渋滞半減、公共交通2倍』をキーワードに」との記載があるが、公共交通の何を2倍にするのか不明であるため、具体的に記載していただきたい。</p>	<p>御意見を踏まえ、キーワードについて注釈を追加しました。 ※自動車の交通量が1割減ると、渋滞が半減する（速度が向上する）という効果が見られている。このキーワードは自動車の利用を減らし渋滞を減少させるために、公共交通の利便性を高めて利用者を2倍にすることを表す。</p>	反映

【熊本県地方創生会議】「くまもと新時代共創総合戦略」（素案）に関する御意見の概要及び県の考え方について

No	御意見・御提案の概要	県の考え方	取扱
3 いつまでも続く豊かな熊本			
(施策1) 豊かな自然の保全			
18	<p>【取組みの方向性】 「●市町村や民間団体と連携し、熊本の宝である自然環境の保全に取り組みます。特に地下水については、確実な保全に取り組みます。」 について、住民・事業者との連携も入れるべきではないか。 「熊本地域地下水総合保管理計画」においても「住民・事業者・行政の連携」を謳っており、特に節水などは関係すると思われる。</p>	<p>御意見を踏まえ、記載内容を修正しました。 ●市町村や民間団体等と連携し、熊本の宝である自然環境の保全に取り組みます。特に地下水については、確実な保全に取り組みます。</p>	反映
19	<p>②ゼロカーボン社会及び循環型社会の推進 ・RE100など再生可能エネルギーの100%利用を目指す企業を積極的に支援します。 ・ゼロカーボンの標準化を企業経営に取り入れられるよう、関係機関、国等との連携により地域ぐるみで金融的・技術的に支援します。 について、ゼロカーボンとRE100の記載があるが、あえて使い分けしているのか。 ゼロカーボンを標準化して地域ぐるみで支援した上で、更に、RE100を目指す企業を積極的に支援するということか。 また、具体的に検討している施策があれば、ご教示頂きたい。</p>	<p>ゼロカーボンについては、省エネ、エネルギーシフト、再エネ導入に取り組むことで脱炭素化を推進するという意味で、RE100については企業の使用電力を100%再エネで賄うことを目指す取組みという意味で使い分けをしています。 ゼロカーボンに取り組むことが標準となるよう、関係機関等と連携した支援体制を構築する旨を総合戦略に位置付け、取組みを進めて参ります。</p>	参考
(施策3) 魅力ある地域づくり			
20	<p>県内にくまなく存在する地域づくり団体がコロナ以降消滅の危機にある。地域の魅力発信のために地域づくり団体への支援を盛り込んでいただきたい。</p>	<p>地域づくり団体への支援については、 柱3いつまでも続く豊かな熊本 (施策3) 魅力ある地域づくり ①市町村との連携・地域特性を踏まえた地域振興に、地域団体や市町村が行う地域活性化の取組みを支援する旨の記載をしております。</p>	記載済

【熊本県地方創生会議】「くまもと新時代共創総合戦略」（素案）に関する御意見の概要及び県の考え方について

No	御意見・御提案の概要	県の考え方	取扱
4 県民の命、健康、安全・安心を守る			
(施策1) 「緑の流域治水」を核とした創造的復興			
21	②若者が“残り・集う”産業・雇用の創出の「残り」という表現について、県外に出られずに県内に残る、というイメージは望ましくないと思う。また、若者だけではなく、女性も加えていただきたいと思う。 例えば、若者・女性が“暮らし・集う”とか、若者・女性を惹きつける産業・雇用の創出などの検討が必要。	「若者が“残り・集う”」という表現は、前回の復旧・復興プランや第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略でも用いており、また、「残る」という表現には、球磨川流域の清流と共に生き、暮らしていきたいとの被災者の想いに寄り添い、県は魅力ある地域づくりに取り組む、という想いを込めております。	参考
(施策2) 災害に強い県土づくり			
22	「①防災力の強化（県民・企業における事前の備え）」で、市町村と連携し、マイタイムライン（防災行動計画）の作成を推進・支援する旨記載されているが、災害時要配慮者への対応として、市町村による避難行動要支援者に係る個別避難計画の作成とその実効性の向上（災害時に機能するかの検証、研修、訓練等）の支援についても記載する必要があると考える。	御意見を踏まえ、記載内容を追記しました。 ①防災力の強化（県民・企業における事前の備え） ・市町村における安全な避難施設や支援物資の備蓄場所の確保を支援するとともに、 <u>避難行動要支援者の個別避難計画の作成・見直しを支援し、その実効性の確保を図ります。</u> また、日頃から関係機関と顔の見える関係を構築し、被災者支援の体制の強化を図り、地震、津波、台風、豪雨等の災害発生に備えます。 <u>さらに、広域避難に備えるため、市町村との体制整備を進めます。</u>	反映
23	①防災力の強化（地域の防災力向上） ・「防災士」については熊本地震時と比較して倍増させ支援する旨の記載があるが、地域防災力の要である「消防団」の団員確保や支援に関する内容についても盛り込んでいただきたい。	御意見を踏まえ、記載内容を追記しました。 ①防災力の強化（災害対応力の強化） 地域防災力の機能回復・向上のため、消防団詰所等の再建・車両・装備等の充実、消防団員の確保対策や技術向上の支援を図ります。	反映
24	「①防災力の強化（災害対応力の強化）」について、災害の頻発化と被害の激甚化・広域化等から、被災地域外からの支援がより困難になる事態が想定される。これまで以上に被災地元関係者が中心となって被災地の支援等に対応していく必要が生じてくると考えられ、こうした観点での災害対応力の強化も必要と考える。 なお、自然災害の頻発・広域化に対しては、「他地域への支援力を強化する」旨の記述や、本県内での災害については、救援・応援に対する「受援力の強化」も必要ではないか。	・「他地域への支援力を強化する」につきましては、「②防災・減災、国土強靱化に資するインフラ整備」に次のとおり記載しています。 「南海トラフ地震など広域的な大規模災害発生に備え、九州を支える広域防災拠点の役割を果たすため、・・・。」 ・「受援力の強化」につきましても、重要な観点だと考えており、「①防災力の強化（県民・企業における事前の備え）」に「日頃から関係機関と顔の見える関係を構築し、被災者支援の体制の強化を図る」旨を記載しています。 頂いた御意見も踏まえ、頻発・広域化する災害への対応力を強化して参ります。	記載済
(施策4) 安全・安心の地域づくり			
25	「④消費者被害の未然防止」について、若者や高齢者だけを対象とする訳では無いという主旨から、 ・社会のデジタル化の進展に伴い、若者から高齢者にわたる幅広い層で深刻な消費者被害が発生しています。県民が被害に遭わないようにするため、・・・以下変更なしと修正した方がよいと思う。	御意見を踏まえ、記載内容を修正しました。 ④消費者被害の未然防止 社会のデジタル化の進展に伴い、 <u>若者から高齢者にわたる幅広い層で深刻な消費者被害が発生しています。</u> 県民が被害に遭わないようにするため、多様な主体と連携した消費者教育・啓発や悪質業者の取締り等に取り組めます。	反映
第3章 重要業績評価指標（KPI）一覧			
26	重要事業評価指標（KPI）一覧 <参考>幸せだと感じている県民の割合（県民アンケート）について デジタル庁が示す地域の幸福度を数値化・可視化した「ウェルビーイング指標」は活用されているのか。	主観的幸福度を測定する上での本県独自の項目や指標設定に当たっては、デジタル庁が示す「ウェルビーイング指標」の内容も参考としております。今後も県民の皆様の声を行政に活かして参りたいと考えております。	参考